

『あきらめずに十段合格』

福井商業高校3年生の坂下莉菜さんが第377回全珠連暗算段位検定試験(平成29年1月29日施行)で十段に合格しました。念願を果たし、おめでとうございます。

段位認定試験は年6回施行。乗暗算40題、除暗算40題、見取暗算40題(各5点)を各3分ずつで計算し、3種目とも200点満点中190点以上で合格します。

九段までは特認制度があり、連続3回分の得点の中で一番よい点数が採用されるので、たとえば前回180点を得れば今回100点でも前回の点数が採用されるとあり、苦手種目を集中して練習できるメリットがあります。

しかし、十段は一回のみの成績で合否が判定されます。一発解答ですから毎回どこかの種目が原因で落ちることが多いです。

坂下さんは平成16年12月9日に鳴鹿幼保園の時に2歳上の兄と同時に通塾し始めました。鳴鹿小学校、丸岡南中学、福井商業へと進み、高校の珠算部では全国で開催される高校生大会に数多く出場。県内の珠算競技大会にも毎年5回出場しています。今春からは福井県立大学経営学部経営学科に進学し、気持ち新たにまた珠算練習を続けます。

これまでの段位暗算検定試験をさかのぼってみると、小学6年で参段合格、中学1年で五段、中学2年で七段と八段、高校1年で九段に合格しました、それ以後十段合格を目指して受験しますが乗暗算種目だけが悪く、8回もの間不合格。毎回、あと1題、あと5点が足らず悔しい思いが続きます。除暗算はまったく問題なく十段ですが見取暗算のミスもあり、なかなか昇段しませんでした。

学校の試験や県外での大会などで練習が思うようにできない時期もありますが、できるだけ塾で練習をつむようにします。パソコンでの暗算では4桁×5桁の練習や見取暗算をできるだけ多く計算したり、プリントでは6桁×5桁の問題を分割暗算とするなど、いろいろ取り組んできました。

何度も不合格になると気持ちが落ち込んでしまい、十段は無理かなと思う時もあったことですが、それでもやり続けてきました。受かる。合格するまでやり続けるという気持ちで練習問題準備を続けました。諦めることはいつでもできるが、九段と十段とではその重みは比べようがないほど大きい。もう九段でいいから十段はあきらめようと思うのは楽だが、それではいつまでも悔いが残る。あの時なぜもう少し頑張らなかったのかと必ず後悔するから、あきらめないことだと話したことがあります。

過去にも九段合格を果たした高校生が、その後十段に挑戦し、福井県支部の段位審査会では十段合格の判定をし、全国の中央審査へと検定問題を送付しましたが数字が不鮮明という理由で不合格になったことがありました。

数回続くとやり抜く意思がうすれ、やはり無理だからあきらめたという人もいました。

乗暗算問題は2桁×2桁から4桁×4桁までで小数第3位未満切り捨て。答えの総字数はコンマと小数点を含め201字。見取暗算では3桁から5桁まで40題で、答えの総字数は179字でコンマが36字で総字数215字。

数字を1秒で4個書いたら1分間が必要であり、乗暗算なら、2桁×2桁から4桁×4桁を平均3秒で計算せねばなりません。いかにして数字を書くかが大事です。

珠算は高校2年で九段合格なので次への挑戦があります。あきらめない気持ちを持ち続けることが何事をもアップさせます。頑張れ！